

第13回伊賀市非核平和推進 中学生広島派遣事業報告書

2017.8.5 - 8.6



第13回伊賀市非核平和推進中学生広島派遣事業参加生徒



伊賀市非核平和推進中学生広島派遣事業行程	2 ~ 3
崇広中学校 西出智紀	4
城東中学校 森福葉芽	4
緑ヶ丘中学校 船見和希	5
上野南中学校 山形航平	5
柘植中学校 大橋七星	6
霊峰中学校 松村朱莉	6
島ヶ原中学校 山出芽依	7
阿山中学校 菅野実袖	7
大山田中学校 田矢朋歌	8
青山中学校 古市瑞稀	8



伊賀市非核平和推進中学生広

1日目

8/5
(土)

被爆体験講話

10歳のとき、爆心地から1km離れた自宅で被爆した寺本貴司さんからお話を聞きました。



爆心地・原爆ドーム見学

爆心地の原爆被災説明板と、原爆の惨禍を伝え、核廃絶と人類の平和を求める誓いのシンボルである原爆ドームを見学しました。



2日目

8/6
(日)

平和記念式典参列

広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に参列しました。



原爆の子の像へ折鶴献納

伊賀市内の中学生一人ひとりが平和への祈りを込めて折った折鶴を捧げました。折鶴を捧げた後は、平和への願いを込めて鐘を鳴らし、黙とうを行いました。



広島平和記念資料館見学

原爆の惨状を示す写真や資料を見学しました。



放射線影響研究所見学



放射線が体に与える影響などについて、展示を見たり、研究員に話を聞きながら学びました。





にし で とも き
崇広中学校 西 出 智 紀

僕が今回の広島派遣で心に残っている場所は、原爆ドームと広島平和記念資料館です。
まず、原爆ドームではむき出しになった鉄骨や砕け散ったコンクリートなどを見ました。
次に、資料館では焼けて変形したビンやお弁当箱、真っ黒にこげた三輪車、そして焼けてボロボロになった衣類などを見ました。

僕はその2カ所を見て回って、あらためて核兵器の恐ろしさ、そして怖さを知りました。
しかし、その恐ろしい核兵器はまだ世界各国で保有されています。そのことから同じ過ちが繰り返されるのではないかと不安になりました。これから時代が進むにつれ、原爆の恐ろしさを知る人が減り、戦争を知らない人たちが増えていくと思います。僕は今回学んだことを自分の中で留めておくのではなく、1人でも多くの人にそのことを伝え、より多くの人に戦争について少しでも知ってもらえればうれしいです。



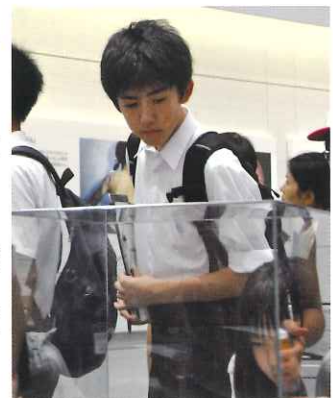
もり ふく はじめ
城東中学校 森 福 葉 芽

今回の広島派遣では、初めて知ったことや印象に残ったことばかりでした。
まず、8月5日にお聞きした被爆された寺本貴司さんのお話です。その中で印象に残ったことは「平和の原点は仲良くすることで、友達や学校を愛することが大切」という言葉です。僕は、友達や家族は宝だということに気付くことができ、これからも自分の周りの人を大切にしていこうと思いました。

次に、原爆ドーム、そして広島平和記念資料館で原爆で亡くなった人の遺品を見たことです。それは修学旅行で行った長崎で見たものと同様に痛々しく見えて、核兵器が恐ろしいものだとならためて思い知らされました。

だから、苦しみしか生まれない戦争をもう起こしてはいけないと思いました。

8月6日の平和記念式典では、子ども代表による平和への誓いで「未来の人に戦争の体験は不要だけど、戦争の事実を正しく学ぶことは必要です。」という言葉が印象的でした。





ふな み かず き
緑ヶ丘中学校 船 見 和 希

派遣初日の8月5日の被爆体験講話で、実際に被爆された寺本貴司さんと出会いました。

寺本さんは話の前には笑顔で僕たちに接してくれました。しかし、話が進められていくうちに、表情が暗くなり真剣な表情で語られるようになりました。寺本さんが原爆を広島に投下したわけではありません。しかし、「自分のせいで母を死なせたのかもしれない。後悔や申し訳ない気持ちでいっぱいだ。」と僕たちに語りかけました。



このように、被爆された人の中には自分のせいで大切な人を亡くしてしまったと思っている人もおられます。

72年前の8月6日の朝、晴天の中原爆が落ちてくるなど誰にも予想できないことだったと思います。家族や友人との突然の別れによって、被爆された人は今でも身体の傷と共に、心の傷に悩まされ苦しんでいます。

僕たちにできることは、過去の戦争の事実に向け、多くの人に伝えていくことです。



やま がた こう へい
上野南中学校 山 形 航 平

僕が今回の派遣で一番心に残っていることは、寺本貴司さんの被爆体験の話をお聞かせいただいたことです。寺本さんは原爆のことを昔話で終わらせてはいけないことや、1人でも100人でも人の命には変わらないという思いで、多くの人にお話をされています。

僕は寺本さんの話の中で、「自分が疎開先から早く帰りたいというわがままを言わなければ、母は死なずにすんだのに。」という言葉聞いて、自分が助かったから良かった、ということではなく、そのことで自分を責めているという寺本さんの思いを感じました。

寺本さんのお母さんが亡くなったのは原爆が投下されたからで寺本さんが悪いわけではないのに、寺本さんの人生をくるわせてしまう原爆は恐ろしいと思いました。また、原爆の被害に



あって生き残った人の中にも放射線の影響で障がい残り、その人の人生を変えてしまったと聞いて、怒りを感じました。

今回、被爆体験の話をお聞かせいただいたので、この体験を1人でも多くの人に伝え、原爆についての記憶を風化させないようにしていきたいと思います。





おお はし なな せ
柘植中学校 大橋七星

私は、広島派遣に参加してとてもよい経験になったと思います。理由は2つあります。

1つは、一緒に行動した9人の同級生と友達になれたことです。最初は緊張して沈黙が多かったけれど、だんだん慣れてきて移動中や見学中、食事やホテルなどで男女関係なく皆で笑顔で話すことができ、楽しかったです。

もう1つは、実際に広島を見て感じて学べたことです。私は広島に行く前に見てきた事をしっかり目に焼き付けて帰ってきたいという目標を立てました。

私たちは今回6つの場所で学習してきました。それぞれ原爆についてという学習の目標は同じですが、

原爆ドームや多くの千羽鶴、資料を見たり、式典に参加するなどして多くのことを学びました。そして、心から平和を祈ることができました。

この学習に参加して、9人の友達をつくることができ、その仲間と平和学習ができたことが、良い経験、良い思い出になりました。



まつ むら あか り
霊峰中学校 松村朱莉

私は、この広島派遣事業でたくさんのことを学びました。広島へ行くと本当にたくさんの平和を願う人々が集まっていました。あちこちで平和を呼びかける大きな声が聞こえ、平和記念式典ではたくさんの想いがつまった静かな黙とうで、まち全体が平和を願う想いでうめつくされていました。

また、海外の人も多く見られ、国を越え、世界中で注目されていることも知りました。

これから被爆体験者がどんどん減ってくる中、被爆体験者の人からお話を聴かせていただく、貴重な学習もしました。被爆者は一人ひとりがさまざまな想いをもち亡くなっていく、または戦争の怖さを伝えながら生きています。目をそむけたくなるほど残酷な事実。でも、平和な世界を創っていくにはその残酷な事実と向き合い、これから私たちがどのようなことをすればいいのか考えていかなければならないと気づくことができました。

原爆が落とされ多くの人々の命を奪い、心を傷つけたのは「過去だ」と昔話のように置き去りにしてはいけません。私たち一人ひとりが小さな力でもずっと平和を呼びかけなければいけないと思わせてくれた活動でした。





やま で め い
島ヶ原中学校 山 出 芽 依

私は広島派遣に参加し、とても良い経験ができ本当に良かったです。

2日間で多くのことを学ぶことができたし、普段あまり考えることのないようなことも考えました。原爆ドームや広島平和記念資料館では原爆の威力がどれだけすごかったのかがよくわかりました。もし、今原爆が落とされたらと思うと怖くなりました。

平和記念公園では周りを見ると国籍に関係なく、世界中から人が集まっていました。核兵器をなくしたいという平和への思いは世界中どこでも同じなんだなと思いました。悲惨な戦争を二度と繰り返さないように、戦争を体験された人たちから私たちがしっかり学んで伝えていくことが大切だと思いました。そして、今まで自分が過ごしていた平和な日常があることや、私たちが勉強して、ご飯を食べ、笑ったりできることが本当に幸せなことなのだという事に気づきました。これからは毎日を大切に、感謝しながら生きていきたいと思います。



すが の み ゆ
阿山中学校 菅 野 実 柚

私は広島での2日間でたくさんのことを学びました。

その中で特に印象に残っているのは、放射能についてと外国との関わりについてです。放射能は建物を通り抜けお腹の中の子にまで影響を及ぼすそうです。建物の中にいれば大丈夫だと今まで思っていたので驚きました。特に胎児の細胞は壊れやすいので、お腹の中で亡くなったり障がいを持って生まれてくる子どももいたそうです。

原爆が投下されたことは外国でも知られていることは知っていましたが、原爆投下後に外国から援助があったことは初めて知りました。外国の人は自分の国のことではないから関係がないと思っているのではないかと思っていましたので、援助のことを知ったとき、とてもうれしい気持ちになりました。



この体験で学んだことは、これから生きていく上でとても大切なことだと思います。だから、忘れることなく次の世代へ受け継ぎ、二度と核兵器が使われないようにしていきたいと思いました。原爆が落とされたという事実から目を背けず、これからも向き合っていきたいです。





た や とも か
大山田中学校 田 矢 朋 歌

私は今回の広島派遣に参加して一番印象に残ったことは、被爆体験講話で聞いたお話です。

お話を聞かせてもらった寺本貴司さんは、当時疎開先で病気になったために広島市へ帰ることになりました。帰る日は8月4日か6日のどちらかと言われ、お母さんは6日と言いましたが、寺本さんは4日がいいと言って8月4日に広島市へ帰りました。そして、8月6日の原爆の被害に遭い、自分は助かりましたが、お母さんは亡くなり、そのことをずっと後悔しているとのことでした。

その話を聴いて私は、被爆された人たちは原爆を落とした国に怒りを感じているだけではなく、そのとき自分がした行動を後悔して今まで生きてきたということを知りました。



原爆は命を奪ったり身体を傷つけたりするだけではなく、心にも傷をつけるものだと感じました。

だからこそ、私たちはこのような悲しいことを繰り返さないように、自分が感じたことを伝えていく必要があると思います。



ふる いち みず き
青山中学校 古 市 瑞 稀

私が一番印象に残っているのは、平和記念式典です。日本だけでなく世界中からたくさんの方が訪れていて、世界中の人たちが心から「世界が平和になってほしい。」「核兵器がなくなっ
てほしい。」と願っていることを感じることができました。私は式典の中で子ども代表の平和への誓いの言葉がとても印象に残っています。それは「当時小学生だった語り部の方は、亡くなった母と姉を見ても涙が出なかったと語ります。感情までも奪われた人がいたのです。」という言葉です。家族が亡くなったら悲しいはずなのに、その感情までも奪ってしまう原爆はとても怖いと思いました。そして、このような恐ろしいことを二度と繰り返してはいけな
いとあらためて思いました。

だから、広島で聞いたことや、見て感じたことを家族や友達、後輩だけでなく、より多くの人に伝えていかなければいけないと思いました。また、現在も核兵器を保有している国があることを考え、たくさんの方がそのことについて関心を持っていかなければならない
と思いました。



7月25日 (火)

事前学習会



8月5日 (土)

出発式



8月6日 (日)

解散式



8月9日 (水)

事後学習会(報告会)



